

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイシン機工(株)吉良工場 食堂・休憩室	階数	地上2F
建設地	愛知県西尾市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,280 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年5月15日
敷地面積	8,935 m ²	作成者	井上 恭兵
建築面積	3,530 m ²	確認日	2016年5月20日
延床面積	6,770 m ²	確認者	磯村 浩徳



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 84%

③上記+②以外の: 84%

④上記+: 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">7.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています
モリトキ 2016

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				2.6	0.15		-	2.6
1.2 遮音				3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能				2.2	0.40		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.60		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.40		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	
1.3 吸音				3.0	0.20		-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.3	0.35		-	2.3
1 室温				2.5	0.50		-	
2 外皮性能				3.0	0.38		-	
3 ゾーン別制御性				1.0	0.25		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.38		-	
2.3 空調方式				1.0	0.20		-	
				3.0	0.30		-	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				3.1	0.25		-	3.1
1 昼光率				4.6	0.30		-	
2 方位別開口		昼光率=2.5%以上		5.0	0.60		-	
3 昼光利用設備		トップライトが設置してある		4.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-	
1 昼光制御				3.0	1.00		-	
3.3 照度				1.0	0.15		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.3	0.25		-	3.3
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面に使用している		4.0	0.50		-	
				4.0	1.00		-	
4.2 換気				3.0	0.30		-	
1 換気量				3.0	0.33		-	
2 自然換気性能				3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		-	
4.3 運用管理				2.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御				1.0	0.50		-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				2.5	0.40		-	2.5
1 広さ・収納性				2.3	0.40		-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画				1.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.33		-	
1 広さ感・景観				3.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース		自動販売機の設置とリフレッシュスペースを計画		5.0	0.33		-	
3 内装計画				1.0	0.33		-	
1.3 維持管理				2.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				2.9	0.31		-	2.9
1 耐震性				3.0	0.48		-	
2 免震・制振性能				3.0	0.80		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20		-	
1 躯体材料の耐用年数				3.3	0.33		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	②	耐用年数が20年以上		3.0	0.23		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				5.0	0.09		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2種類以上にC以上を使用している		4.0	0.15		-	
2.4 信頼性				3.0	0.23		-	
1 空調・換気設備				2.4	0.19		-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3 電気設備		一時的貯留機能が確保できるピットを設けている		4.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	②			1.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-	
1.0 2.0				1.0	0.20		-	
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.4	0.29		-	3.4
1 階高のゆとり				4.6	0.31		-	
2 空間の形状・自由さ		階高3.9m以上 壁長さ比率0.149		5.0	0.60		-	
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.31		-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.38		-	
2 給排水管の更新性	②			3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.17		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.11		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		Q3 室外環境(敷地内)						-	0.35
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30		-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.91		3.0	0.16		-	3.0	
2 自然エネルギー利用		トップライトが設置してある		4.0	0.24		-	4.0	
3 設備システムの高効率化				4.0	0.36		-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m 値=0.78		4.0	1.00		-		
集合住宅の評価(3c)							-		
4 効率的運用				3.5	0.24		-	3.5	
集合住宅以外の評価				3.5	1.00		-		
4.1 モニタリング			建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画されている	3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制				4.0	0.50		-		
集合住宅の評価							-		
4.1 モニタリング							-		
4.2 運用管理体制							-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4	
1.1 節水		省水型機器を使用している		4.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63		-	3.0	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.21		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	床:ビニル系床材		3.0	0.21		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.25		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22		-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない建材種別を1つ使用している		4.0	0.32		-		
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-		
1 消火剤				-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-		
3 冷媒				3.0	0.50		-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2概算値:84%	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮				2.6	0.33		-	2.6	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制	独自	汚水処理負荷を高く抑制している		4.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制	独自	適切な量の駐車スペースの確保		4.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-		
1 騒音	独自			3.0	0.33		-		
2 振動	独自			3.0	0.33		-		
3 悪臭				3.0	0.33		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-		
1 風害の抑制				3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制							-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のガラス面に覆れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリストの過半をみている	5.0	0.70		-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

アイシン機工(株)吉良工場 食堂・ものづくり棟新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.10	外構緑化:7.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高 H=3.9m以上確保し、壁長さ比率0.149により空間の形状・自由度を考慮。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 材料使用量の削減として、トラス構造により断面面積を減らしている。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に対し十分な対策をとる。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。